

課題 6-2

地球温暖化問題以外の地球規模問題への対応の強化

取り組み例	指標	2002 (14年度)	2003 (15年度)	2004 (16年度)	2005 (17年度)	2006 (18年度)		2007 (19年度)
						計画	実績	
水資源・感染症・人口問題への支援	(指標1) 水資源・感染症・人口問題に資する出融資保証対象プロジェクト数		13	24	25	47	53	43
酸性雨問題軽減に資する対策への支援	(指標2) 酸性雨問題軽減に資する出融資保証承諾プロジェクト数		新規		1	2	2	1
評価結果								

：優れた取り組みがなされたと評価します。：良好な取り組みがなされたと評価します。：今後の取り組みに留意が必要です。  
 -：外部環境の変化等により評価不能。

( ) (指標1)、(指標2)いずれも、2005年度は案件数を、2006年度はプロジェクト数を、計画値、実績値として計上。

1. 年間事業計画に掲げている取り組み例に関する評価

水資源・感染症・人口問題への支援

- ・ (指標1)の実績については、計画をほぼ達成しました。項目別の実績をみると、以下のとおりです。
  - 水資源問題への取り組みは、前年度に比して大幅に増加しました。特に、上下水道等の環境改善事業の増加により、2006年度の円借款の部門別承諾額で社会的サービスの占める割合が初めて1位(45.7%)となりました。具体的には、インドでの人口増加に伴い急増する水需要に対応する安定的な上水道サービスを供給するための上水道整備事業、中国の下水道施設、上水道施設及び集中放熱供給施設の整備により下水処理能力、上水供給能力の向上、水質汚濁・大気汚染原因物質の削減を図る環境整備事業、バングラデシュの上水道整備事業等を支援しました。その他、中国やインド等の植林事業やフィリピンの洪水対策のための河川改修事業、ペルーの灌漑整備事業等を支援しました。
  - 感染症問題への取り組みでは、スリランカで、血液供給システム改善事業(2000年度承諾)における中央血液センター整備の一環として、WHO(世界保健機関)と初めて連携し、現地の保健医療職員に対して感染症対策強化のための研修・トレーニング等を行いました。また、同国の各地の小規模病院や学校において、感染症対策を念頭においた現状調査を実施しました。その他、大規模なインフラ事業である港湾整備事業における工事労働者等向けのHIV/エイズ感染予防対策に関するセミナーをインドネシアで開催しました。
- ・ また、上記の指標の対象ではありませんが、以下の取り組みを行いました。
  - 水資源問題については、北京で開催された「世界水会議」に初めて参加しました(131頁、事例紹介参照)。本会議は「世界水フォーラム」、「ストックホルム世界水週間」となるが、水セクターの主要な国際会議です。本行は、上下水道事業に導入されている新たな金融スキームの機能や課題について議論することを目的として、「Local Financing Strategies」をテーマに、水セクターへのファイナンスに関する分科会を主催しました。また、USAIDとの間で第5回の「日米水協力モニタリング会合」を開催し、フィリピン、インドネシア、インド、ジャマイカのパイロット4カ国について、水分野への民間資金導入や水系

管理等での連携について協議しました。

- 感染症問題については、これまでも、アジア諸国においてインフラ整備事業でのエイズ対策を実施するなどの取り組みを行ってきましたが、2006年度は、世界銀行、アジア開発銀行(ADB)、アフリカ開発銀行(AfDB)、イギリス国際開発省(DFID)、ドイツ復興開発公庫(KfW)との間で、「インフラ事業を通じたHIV/AIDS 拡大予防共同イニシアティブ」を締結しました。本イニシアティブは、各機関が有する情報や好事例の共有などを通じて、効果的なエイズ対策支援を行うことを目的としています。更に、アフリカでのエイズ対策については、社会的に関心の高まっている企業の社会的責任(CSR)の促進も視野に、南部アフリカ地域の民間セクターによる職場でのエイズ対策調査に着手しました。
- アジア各国で急増する廃棄物処理問題の解決に向けて、2006年度は、北九州市で開催された第2回アジア太平洋廃棄物専門家会議に前回に引き続き参加し、廃棄物管理に関する情報交換や研究開発促進に向けた、専門家による域内ネットワークの立ち上げの準備を行いました。

#### < 事例紹介 > 世界水会議 (北京)

本行は、9月10日～14日に北京で開催された「世界水会議」に初めて参加しました。同会議は、「世界水フォーラム」、「ストックホルム世界水会議」と並び、水セクターの主要な国際会議の一つであり、国際水協会が2年に1度の頻度で開催しています。

会議の全体テーマは「Sustainable Water Management Practice」。上下水処理、統合水資源および河川流域管理、健康と環境など約160の分科会と約200の出展があり、世界から約2,000人が参加しました。

本行は、上下水事業に導入されている新たな金融スキームの機能や課題について議論することを目的として、「Local Financing Strategies」をテーマに、水セクターへのファイナンスに関する分科会を主催しました。世界銀行、米国国際開発庁の他、インド、フィリピン、中国の参加者から、各々、上水事業へのOutput-Based Aidの導入事例、Revolving Fundの導入、インドでの革新的なアプローチ、マニラでの民活の成功例、中国の下水事業へのBOTの活用などの報告がなされ、約100人の聴講者との間で活発な質疑応答が行われました。展示ブースでは、本行が中国で支援している水セクターの事業に関するパネルを展示するとともに、水セクターへの取り組みなど、本行の業務内容をまとめた冊子も配布しました。

## 酸性雨問題軽減に資する対策への支援

- ・ (指標2)については、計画を達成しました。円借款を供与した中国の大気環境改善事業では、小型石炭ボイラーを代替する集中型熱供給設備を導入することにより、SO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)等大気汚染物質の排出量削減が期待されます。

## 2. 課題への取り組み状況の評価結果

- ・ 上記に照らし、課題への優れた取り組みがなされたと評価します。
- ・ 水資源・感染症・人口問題、及び酸性雨問題軽減に資する事業への支援については、引き続き重点的に取り組むことが求められています。また、廃棄物問題などにおいて新たな取り組み幅を広げつつあるように、地球規模の多様な課題とニーズに対して、内外の経験・知見を一層活用し、成果の実現に向けて引き続き取り組んでいくことが重要です。